



MDF2026

次世代医療システム産業化フォーラムの取り組み

大阪商工会議所

産業部ライフサイエンス振興担当

価値創出・課題解決プロジェクト

1. ものづくり×イノベーション

AI SDGs 繊維 町工場
スタートアップ

2. ウェルネスビジネス創出

創薬 医療機器 ウェルネス
スポーツ

3. 都市魅力再構築

グレートナミ 商店街 観光
食 IR

4. まちなかりビングラボ

イノベーション オープン
フィールドシティ イノベーション
拠点 実証実験

経営基盤強化パッケージ

5. 稼ぐ力強化

事業承継 経営相談 健康経営
IT化 サイバーセキュリティ

6. 人的資本強化

外国人材活用 若手活躍 メンタルヘルスマネジメント
リスクリング 採用支援

7. 商流創造・グローバル展開

商談会 対日投資促進 海外展開支援
ASEAN

大阪八百八橋
共創
プラットフォーム

新事業共創ファーム

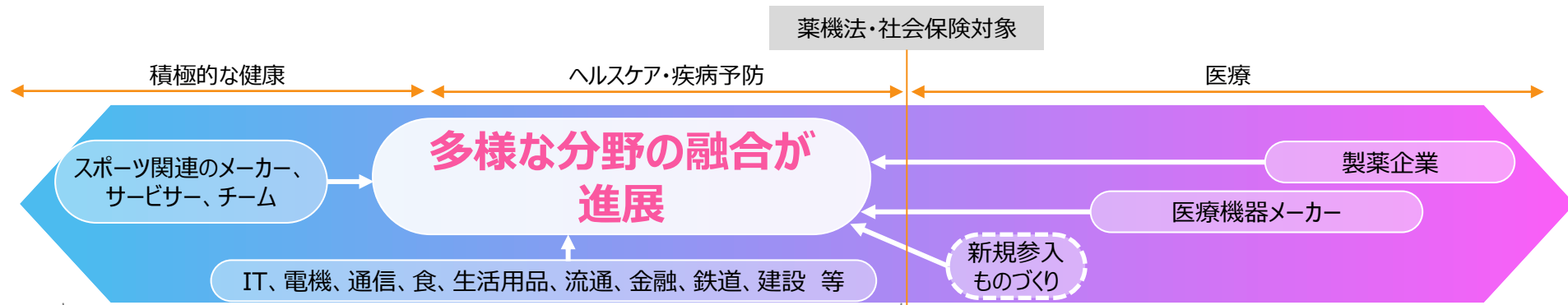
(仮称)

万博レガシーとして、中小企業・スタートアップの成長を図る新たな枠組みを立ち上げ

京阪神3商工会議所で、開発、実証、販路開拓・拡大、海外展開を一貫支援

注力分野として
位置づけ

最先端医療のための創薬、医療機器開発から、未病予防対策のヘルスケア（非医療）、スポーツによるカラダづくりまで、幅広い範囲における研究開発支援・事業化支援を実施



スポーツウェルネス・スポーツビジネス

スポーツ産業振興委員会

【新】ヘルスケア共創プラットフォーム (仮)

ヘルスケア製品・サービスの開発や普及拡大を図る企業が課題やニーズを提示し、共創企業を募るプラットフォーム事業。

医療機器

ライフサイエンス振興委員会

創薬

医療機器等開発の総合支援プラットフォーム 医工連携、企業間連携、事業化支援促進

1. 事業目的

- 異業種からの医療への新規参入促進による新ビジネス創出
- 医療機器分野のイノベーション創出エコシステム

2. 特長

- 全国初の医工連携プラットフォーム（2003年～）
- 全国の病院・大学・研究機関・企業対象
- あらゆるステージにおける事業化支援を可能にする体制
- グローバルネットワーク構築



参画企業のべ数
3,325社



全国連携ネットワーク
195機関



医療現場ニーズ
提案数
1,036件



面談数・マッチング率
3,538件・96.6%



共同開発プロジェクト
創出数
510件

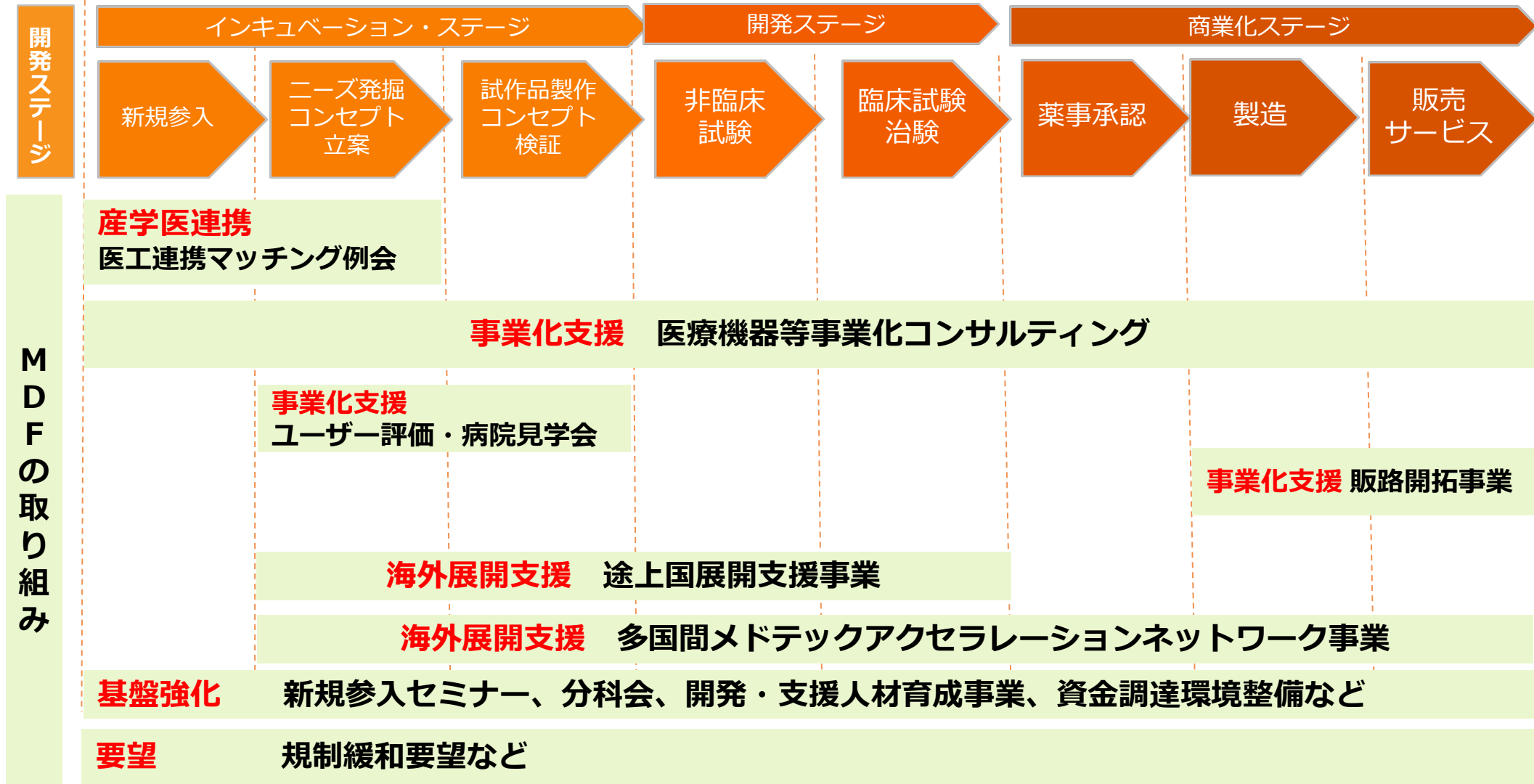


事業化相談件数
2,754社・5,030件



事業化件数
77件

全国唯一の医療機器等開発エコシステム構築



社会的なテーマに連動した医療ニーズにも注目し、さらなる中小企業の参入促進を図る

■ 医療機器事業における新たな視点

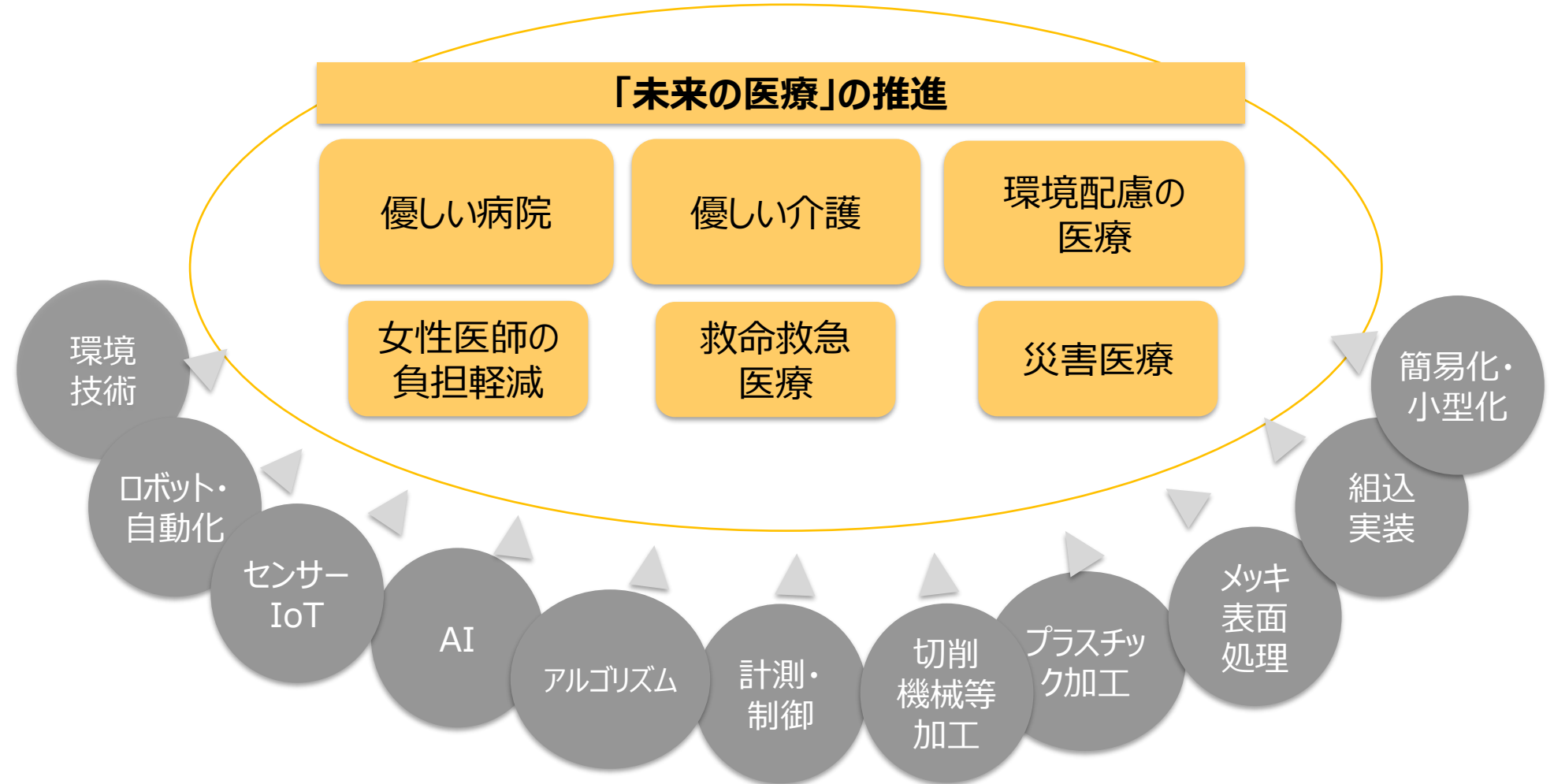
社会が求めるテーマに関連する医療現場ニーズに注目

■ 新たな視点

- 『Well-being』
- 『環境配慮』
- 『女性活躍』
- 『大規模災害』
- 『IR・インバウンド』

■ 中小モノづくり企業の活躍

医療そのものではなく、医療を提供する環境や、病院外にも、多くのニーズが潜在。
こうした課題解決は、
中小企業のモノづくりが必要になる場合が多い。



今後注目する医療現場ニーズを解決するには、
新たなテクノロジーの導入だけでなく、中小ものづくり企業の技術がより重要となる

貴社の技術を医療・介護・福祉へ活用！ 社会課題の解決に貢献！

本フォーラムで、多様な企業が活躍中！

- 新規事業を探索している中堅・大企業
- 小ロット多品種製造を得意とする中小企業
- オンリーワンの部素材・加工技術を持ったモノづくり企業
- 現場の声を速やかに製品に反映できる機動力を持った企業
- AIやITを活用した医療ソリューションに取り組む企業
- 医療機器開発・事業化をサポートするサービス企業

上記のほか、医療機器メーカー・医薬品メーカーも参加！



医療分野のビジネスに参入したいが、どのように進めていけばよいのでしょうか？

自社の技術をどのように医療分野等で活用できるか、具体的な参入事例・方法をご紹介します、参入をサポートいたします。



どのように参入すべきかお悩みの企業様はまずはご相談ください！

本フォーラムに入会するとこんなメリットが！

- 医療現場の課題・ニーズを把握することができる！
- 個別に医療従事者と議論をできる場が得られる！
- 普段目にする事のできない医療機関の中が見られる！
- 開発中の製品を医療従事者に評価してもらえる！用途開発も！
- 医療現場のみならず開発に取り組む企業とも知り合える！

対象企業

健康・医療・介護機器開発等に関心がある企業(これから参入予定の企業を含む)。企業規模、事業内容、所在地に制限はありません。

参加料・サービス対応表

会員区分	参加費 (年額,税込)		主なサービスの利用可否				
	主催・共催 会議所会員	左記 非会員	例会	分科会	事業化 支援	ユーザー 評価	病院 見学会
正会員	¥140,000	¥195,000					
正会員 (資本金 3 千万円以下)	¥120,000	¥165,000	○	○※2	○	○ 有料	○ 有料
正会員 (ベンチャー企業※1)	¥70,000						
分科会 会員 (料金は一つの分科会あたり)	¥70,000 ※2026年度無料		—	○※2	○ 正会員優先	—	○ 有料 正会員優先
特別会員 (大学・医療機関・公的研究機関等)	無料		○ 面談不可	○※2	—	—	—

- ・法人毎にご登録下さい。(参加登録した企業の子会社、関係会社の方も別途上記参加費が必要です。)
- ・上記の参加費で年間すべての例会に、参加企業の方であれば何人でもご参加いただけます。但し、交流会等は実費をその都度申し受けます。
- ・正会員につき、後期入会の場合は上記金額の半額となります。
- ※1 創業 5 年未満かつ資本金3億円以下で、他の事業会社が単独で発行済株式総数または出資総額の2分の1以上を所有または出資をしていない企業。
- ※2 分科会はイベント毎に別途参加費を設ける場合があります。

[詳細・お申込みはHPまで] <https://www.osaka.cci.or.jp/mdf/admission/>

参加数は分科会会員含め のべ**1,881社4,703名!**

※2026年2月時点

区分		参加企業・参加者数	
企業正会員数 (企業正会員等、有料参加企業)		114社	(有料会員)
会員登録者数 (企業正会員、医療機関等の特別会員の登録者)			726名
分科会	デジタル医療	644社	1,626名
	看護・在宅医療	479社	958名
	介護・福祉	414社	821名
	再生医療等	230社	572名

医工連携マッチング例会実績 (2026年3月時点)



	課題提案数 (例会発表案件数)	マッチング数 (関心社・研究者との 個別面談数)	面談後進展数 (左記マッチング からの発展)
2025年度	37件	92件	510件
累計 (2003年開始時～)	1,036件	3,538件	

MDF事業化実績

事業化
(上市等)
77件
※MDF関連事業での
事業化 17件を含む

<主なサービス> ※他にも充実した支援を提供！

医工連携マッチング

医工連携マッチング例会を年間7回開催。特別例会1～2回、全国から厳選した**40件程度の共同開発案件**等を医師、研究者等から企業に対して発表



事業化コンサルティング

薬事・研究開発・マーケティング・産学連携など**専門知識が豊富な30名程度の事業化支援アドバイザー**があらゆる相談に対応



プロトタイプ開発支援

国の研究開発事業への公募をめざすプロジェクトに対して、**プロトタイプ開発などに資する有効性・市場性等の検証支援**などを実施



医療機器等ユーザー評価事業

臨床現場で従事している医療従事者（医師、看護師、臨床工学技士など）などに開発中の製品の改良につながるコメントを実際に聞く機会を提供



販路開拓支援

医療機器メーカー・販売会社に対して、売りたい自社の製品・試作品や部素材・技術を提案する商談会を開催するほか、**展示会や学会などへの共同出展**を実施



海外展開支援（MTA）

海外アクセラレーターと連携し、国際競争力を持つ医療・ヘルスケア分野のスタートアップ、中堅・中小新規参入型企業の育成・事業化を支援



海外展開支援（途上国市場支援）

途上国や新興国の海外の医療機関等と連携してマッチングセミナーを開催し、海外の市場展開などを支援

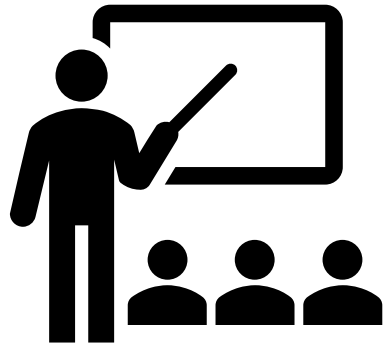


医療機器開発人材育成支援

企業内の開発・事業化人材の育成のため、**開発・事業化課題の解決に関するノウハウを学ぶ**講座・セミナーなどを開催



<一般的な流れ>

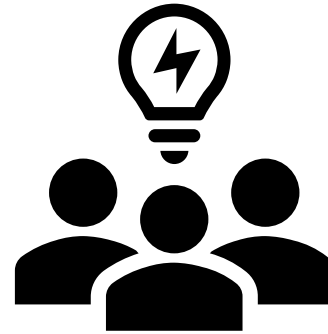


①医療現場のニーズ収集 (年間7回程度)

- 全国各地の医療従事者等が企業に対して現場ニーズ等を発表
- 各回5~6名程度が登壇し、昨年度は37件のニーズを提示



事務局へ
面談希望連絡



②個別面談(企業×医療従事者)

- 専門知識を有するアドバイザー同席のもと、ニーズを解決するための提案を有する企業と発表者の個別面談を実施。
- 昨年度の実績は92件。



③共同研究・開発をスタート

- 合意すればNDAの締結等を行ったのち、共同研究・開発をスタート
- 専門アドバイザーが相談に応じ、面談後の事業化をサポート

【モデレーター】次世代医療システム産業化フォーラム座長 橋爪 誠 氏

◆第一部：最新情報提供セッション（60分）

「医療機器事業をビジネスとして成功させるためのポイント」

一般社団法人米国医療機器・IVD工業会 デジタルヘルス委員会委員長/
診断・治療機器委員会副委員長/RAQA委員会副委員長 大竹 正規 氏

◆第二部：共同開発提案セッション（25分×6件）

「骨粗鬆症患者対応！骨質に依らず正確な穴を製作できる新型ドリル」

島根大学 医学部 整形外科 講師 今出 真司 氏

「低侵襲大動脈弁形成術用カテーテルの開発」

大阪大学医学部付属病院 未来医療開発部(心臓血管外科) 助教 三隅 祐輔 氏

「MRI/CT用左右認識マーカー」

京都大学医学部付属病院 放射線部 助教 樋本 祐紀 氏

「嚥下内視鏡検査におけるAI診断補助システムの開発」

福島県立医科大学 医学部 耳鼻咽喉科学講座 准教授 今泉 光雅 氏

「定量的骨癒合診断を実現する応力発光骨固定プレート」

国立研究開発法人産業技術総合研究所 センシング技術研究部門
センシングマテリアル研究グループ・研究グループ長 藤尾 侑輝 氏

「高速輸血を可能にするマイクロ波式血漿融解装置の開発」

独立行政法人国立病院機構水戸医療センター 救急科医長/副救命救急センター長 堤 悠介 氏



▲ 例会の様子

交流会の様子 ▼



医療従事者からの共同開発提案の累計が1,000件に到達した記念例会を開催

7/28 MDF医工共創アワードJAPAN～未来の医療をデザインする医工連携の最前線～

医工連携による医療機器開発・事業化に貢献した医師・企業を称えるアワードを初開催。医工連携の取り組みで成果を上げている新規参入型の企業5社をノミネートし、MDF座長陣の審査により「最優秀賞」、「優秀賞」、「奨励賞」を決定。医工連携による医療機器開発に貢献した7名の医師にも「特別賞」を授与した。

<特別賞受賞医師>

- 中島 清一 大阪大学大学院 医学系研究科
次世代内視鏡治療学共同研究講座 特任教授
- 菊池 大輔 虎の門病院分院消化管センター内科 特任部長
消化器と診断・治療内視鏡クリニック院長
- 清水 雄介 琉球大学病院 病院長補佐
琉球大学大学院 医学研究科 形成外科学講座 教授
- 炭山 和毅 東京慈恵会医科大学 内視鏡医学講座 講座担当教授
- 吉松 淳 国立循環器病研究センター
循環器病周産期センター長兼産婦人科部長
- 柴田 利彦 大阪公立大学名誉教授
医学研究科病因診断科学特任教授
- 丸岡 豊 国立健康危機管理研究機構国立国際医療センター
歯科・口腔外科診療科長

<受賞企業>

- <最優秀賞> 山科精器(株) (滋賀県)
- <優秀賞> 安井(株) (宮崎県)
- <奨励賞> (株)エスケーエレクトロニクス (京都府)
- 入江工研(株) (東京都)
- ハリキ精工(株) (大阪府)



11/12 「新たなテクノロジーが切り拓く超高齢社会の未来」

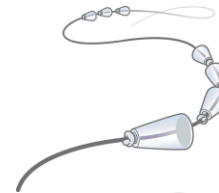
超高齢化社会がますます進展することで、高齢者特有の医療現場課題が発生し、人手不足が進行するなど、**医療・介護現場には多くの課題が山積**している。

特に介護現場で求められるものは医療機器でないものも多く、高齢者特有の課題にきめ細やかに対応するために、**中小を含めた多様な新規参入型の企業が技術を生かす機会を得ることができる。**

具体的な共同開発提案

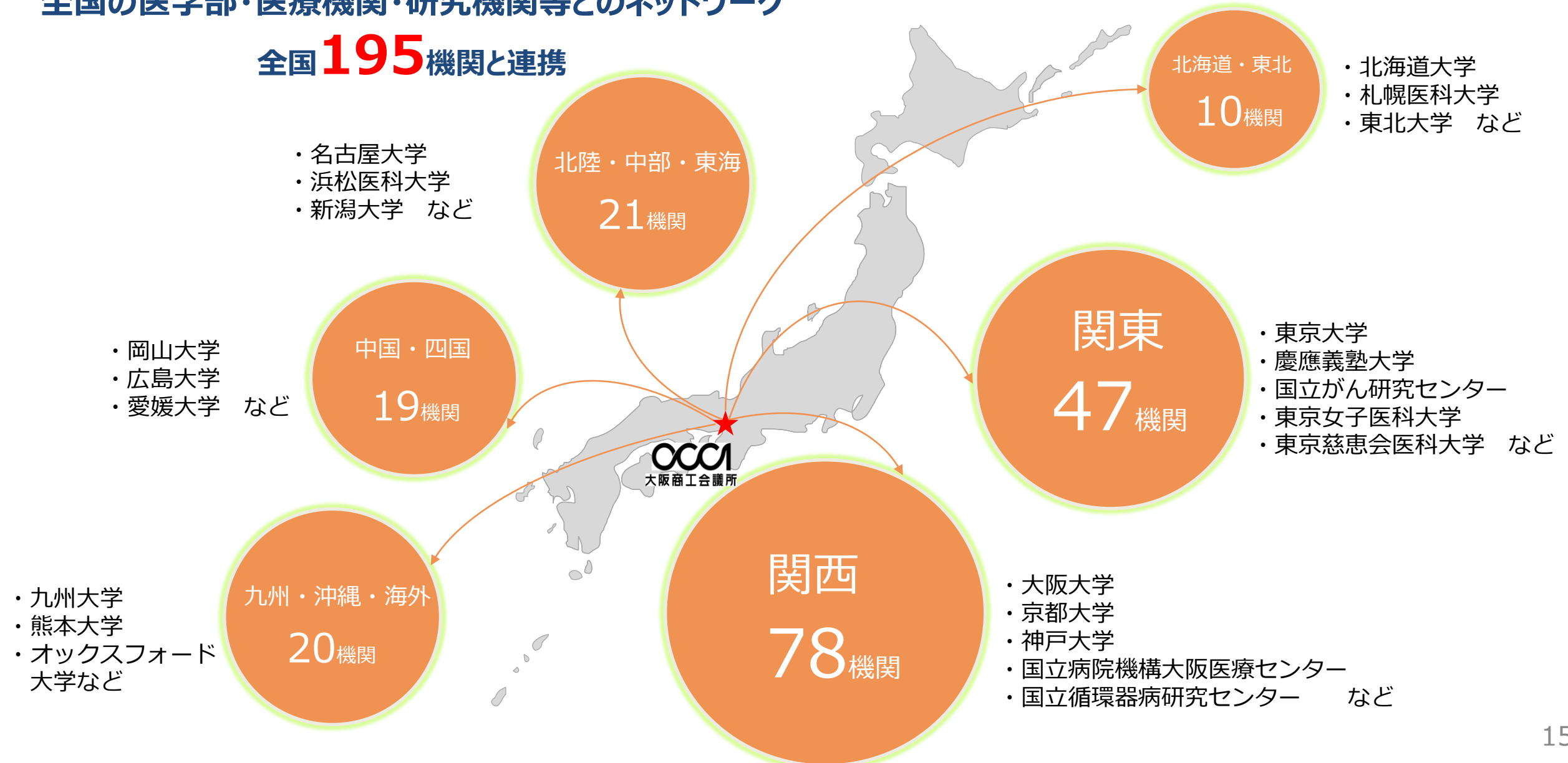
発表テーマ

- ▶ 加齢に伴って生じる誤飲において、異物を安全に除去する内視鏡フードの開発
- ▶ 「段差・階段移動の障壁」を解決する車いすや姿勢保持装置に自在に装着できる汎用パイプの開発
- ▶ 介護現場における人手不足を解決する安価で実用的なICTソリューションの開発
- ▶ 高齢者の要介護予防に向けた三次元動揺と重心動揺を同時測定し、咬合力との関連を明らかにする機器の開発



全国の医学部・医療機関・研究機関等とのネットワーク

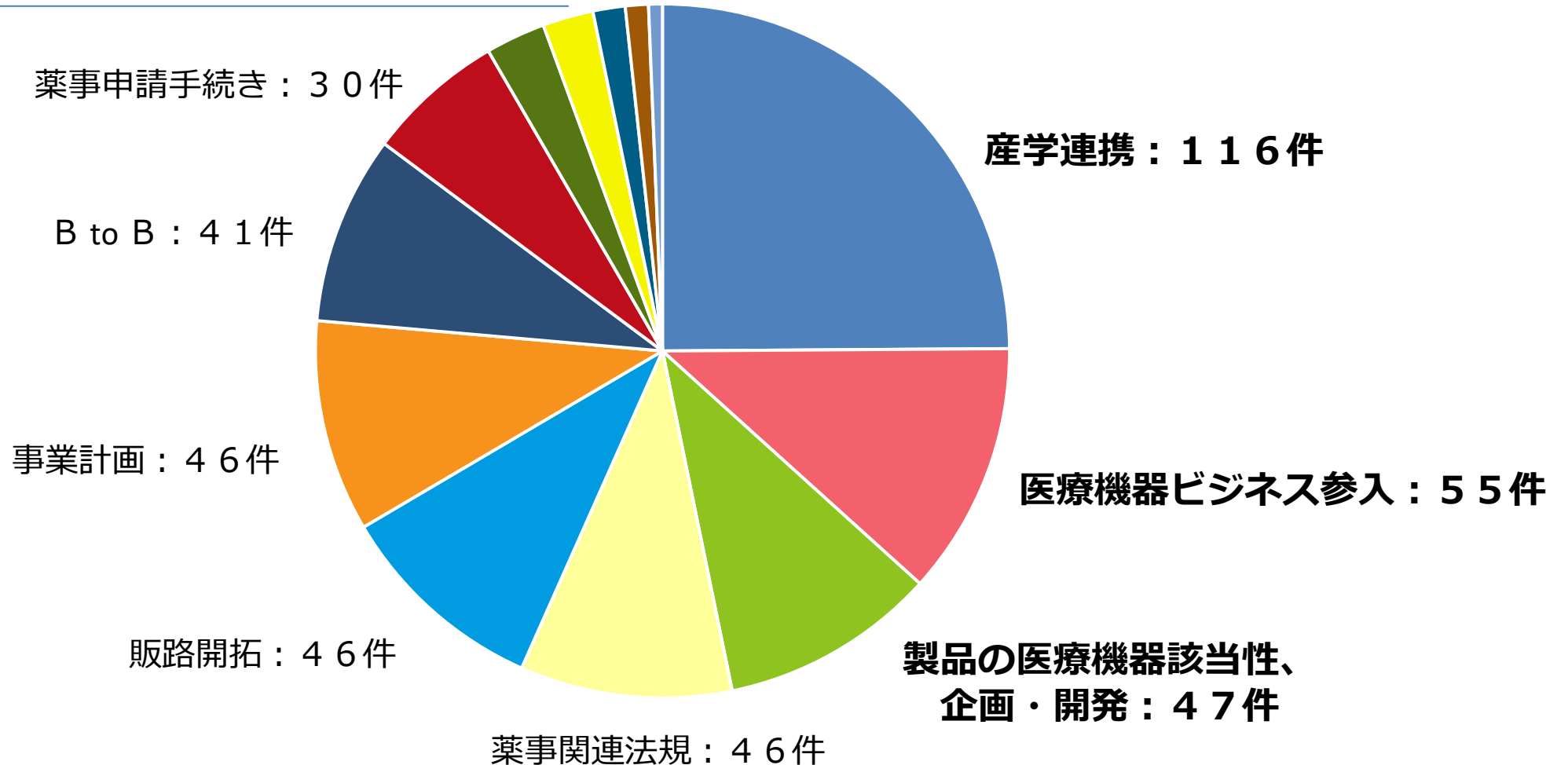
全国 **195** 機関と連携



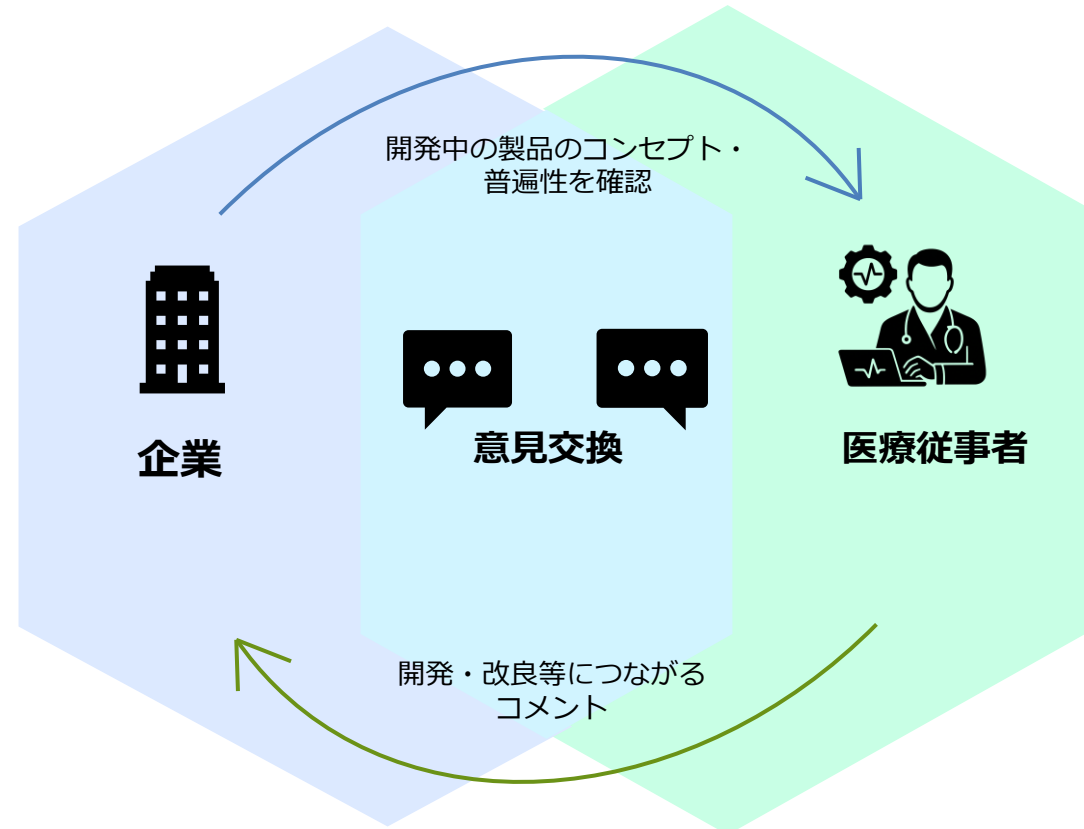
各企業が医療機器の開発や事業化を推進する際に直面する課題について専門家が個別にアドバイスする機会を提供。

2025年度 事業化相談社数合計 **302社(466件)**（2025年4月～2026年3月）

- 海外展開：13件
- 知的財産：11件
- 保険償還：7件
- 治験：5件
- その他：3件



医療・介護現場のニーズに即した製品開発の促進を目的に、医療・介護従事者に開発中の製品をみてもらい、改良・開発につながるコメントをもらう機会を提供。(2025年度6件実施)



大阪医療センターでの評価の様子

評価者の例：医師、看護師、放射線技師、薬剤師、理学療法士、作業療法士、手術部医師、救命救急士、臨床工学技士、言語聴覚士など
テーマの例：在宅医療用装置、歩行リハビリ機器、看護師の負担軽減システムなど

異業種から医療機器産業へ参入、参入して間もない中小企業等にとって課題となる医療機器メーカー・商社との連携を支援するための売込商談会を年間2回実施。中小企業単独ではアクセスが困難な企業との橋渡しを実現。

<一般的な流れ>



<2025年度開催実績>

製品・試作品編

- 商談申込 : 30社72件
- 商談実施件数 : 43件
- 買い手企業 : 5社
 - ・オルバヘルスケアホールディングス
 - ・三笑堂
 - ・東レ
 - ・ビー・ブラウンエースクラブ
 - ・村中医療器

部素材・技術編

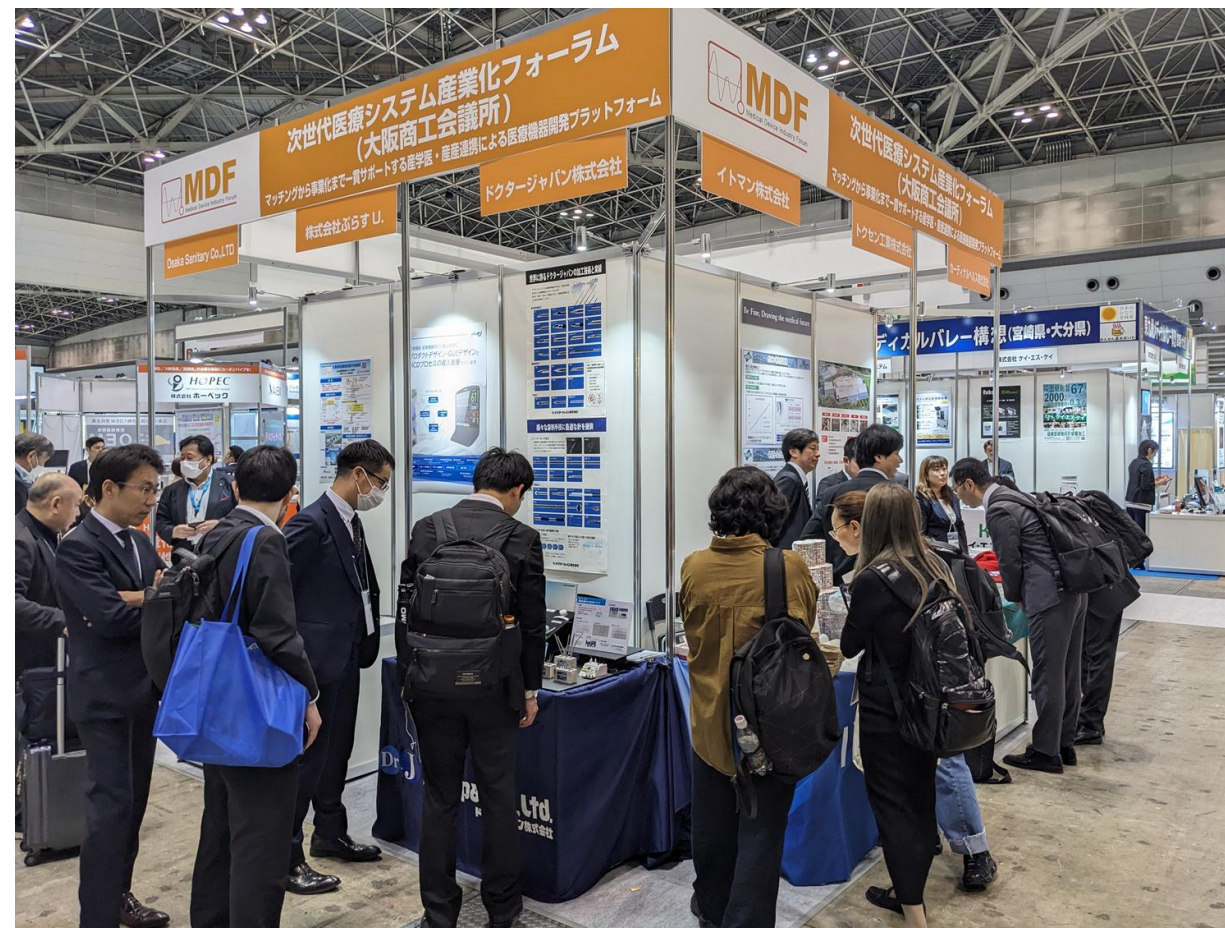
- 商談申込 : 26社54件
- 商談実施件数 : 32件
- 買い手企業 : 4社
 - ・カイゲンファーマ
 - ・カーディナルヘルス
 - ・常光
 - ・大研医器



Medtec Japan2025に次世代医療システム産業化フォーラムとしてブースを出展。MDF会員企業10社と共同出展を行い、技術PRや新たな取引先の拡大を支援。

日 時：2025年4月9日(水)～11日(金) 会 場：東京ビッグサイト

NO	企業
1	イトマン株式会社
2	入江工研株式会社
3	大阪サニタリー株式会社
4	オーナンバ株式会社
5	株式会社カナエ
6	カーディナルヘルス株式会社
7	山陽電子工業株式会社
8	トクセン工業株式会社
9	ドクタージャパン株式会社
10	株式会社ぷらすU.



大阪商工会議所 次世代医療システム産業化フォーラム (MDF)

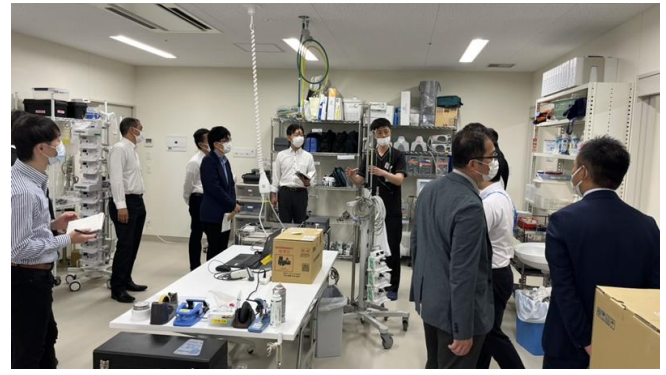
医療機関と連携し、企業が病院現場を見学する機会を提供。診療科・部門ごとの業務フローや課題、使用される機器についての理解を促進する。見学後に医療従事者とのディスカッションも実施。

①大阪けいさつ病院 テーマ：スマートホスピタルの実現

<2025年度開催概要(6/5)>

- ・澤病院長による挨拶
- ・医療現場の見学
- ・質疑応答
- ・名刺交換会

<参加者数>
29名

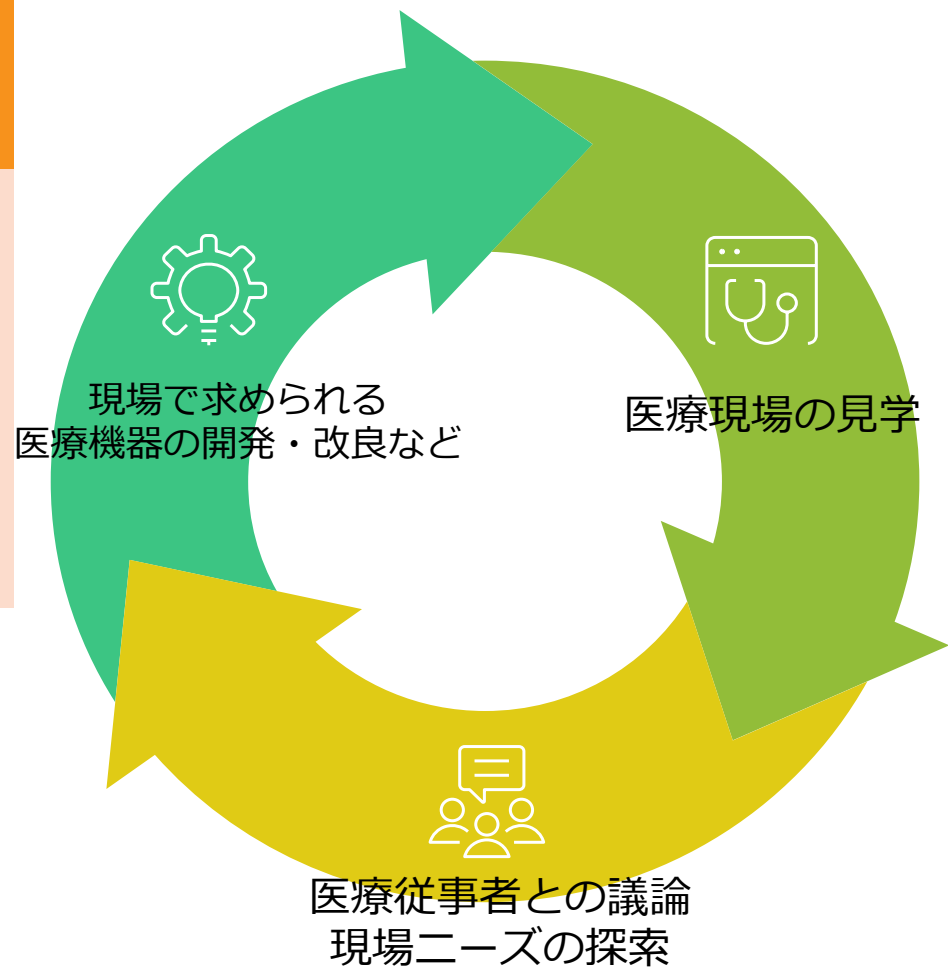


②大阪医療センター テーマ：急性期医療を支える コメディカル3部門

<2025年度開催概要>

- ・11/27 薬剤部
- ・12/11 臨床検査科
- ・1/15 リハビリテーション科

<延べ参加者数>
54名



日本発の医療機器の輸出、企業の海外市場展開の促進を目的に、JICAと連携して途上国や新興国のビジネス環境や日本企業の進出可能性の紹介、医療機関・現地ディーラーとのマッチングを通じた海外展開を支援。2025年度はタイを対象に実施した。

開催概要

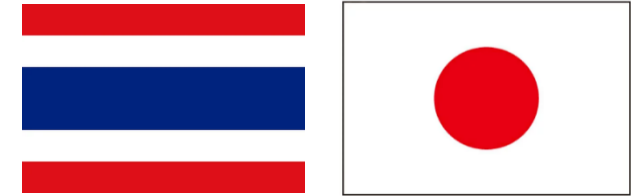
日時：2026年1月22日（火）15：00～17：30

会場：オンライン開催(zoom)

主催：大阪商工会議所、(独)国際協力機構（JICA）

共催：関西医療機器産業支援ネットワーク（事務局：近畿経済産業局）

独立行政法人日本貿易振興機構（JETRO）大阪本部



プログラム

「タイにおける投資環境-医療と介護を中心に」

独立行政法人日本貿易振興機構 バンコク事務所 上江洲 祐貴 氏

「医療機器展示会Medical Fair Thailand 出展報告」

カーブジェン株式会社 アジア事業部長 上利 尚大 氏

「海外協力隊員が語るタイ介護現場課題のレポート」

JICA海外協力隊シニア隊員 小池 ひづる 氏

「タイ医療機器・介護機器の開発ニーズ」

RISE Accel Co., Ltd., Portfolio Manager Mr. Poom Tanthaprabha

株式会社松永製作所 海外営業部長 早矢仕 真史 氏

「JICAによる企業支援メニュー」



開催
結果

参加者：101名
マッチング：4社4件

MEDTECH ACTUATORと連携協定を締結し、グローバル展開支援を加速

Overview

- MEDTECH ACTUATORは、2018年に豪州・メルボルン市を本拠地として活動を開始した**非営利**の医療・ヘルスケア専門のスタートアップ・アクセラレータ
- 世界中の企業に対し、グローバル市場における最適な出口戦略を実践的なプログラムを通じて指南することができるノウハウとネットワークを有する
- 2024年10月には大阪に日本拠点を開設

Partner



- 150を超える国内外のパートナーと連携

Mentor

診療科のKOL	医療従事者	企業人
起業家	法務専門家	エンジニア

- 約100名の外部メンター

Performance

1000+	\$4.1B	\$715M
支援スタートアップ数	支援先の合計時価総額	支援累計資金調達額



左:大阪商工会議所 副会頭 相良 暁
 右: MEDTECH ACTUATOR CEO/最高経営責任者 バズ・パーマー 氏

国内外のメドテックスタートアップ
による国際ピッチコンテスト

GLOBAL PITCH SHOWDOWN ※AMED事業

世界各国から選抜されたメドテックスタートアップが大阪に集結して開催するピッチコンテスト。
国内外から集まるKOLや投資家、最先端の技術を有する有望なスタートアップとのネットワーキングが可能。



GLOBAL NAVIGATOR JAPAN

国内外の企業が日本全国の医療機関や企業などを巡る訪問プログラム

GLOBAL NAVIGATOR ※AMED事業

海外展開を目指す日本企業の海外展開戦略の策定や海外のKOLとのネットワーキングを行う現地訪問プログラム

国内外のメドテックスタートアップ、
中堅・中小企業による
医療現場視察やマッチングによる
海外事業展開の加速化

○○○○

エンジェル

シード

シリーズA

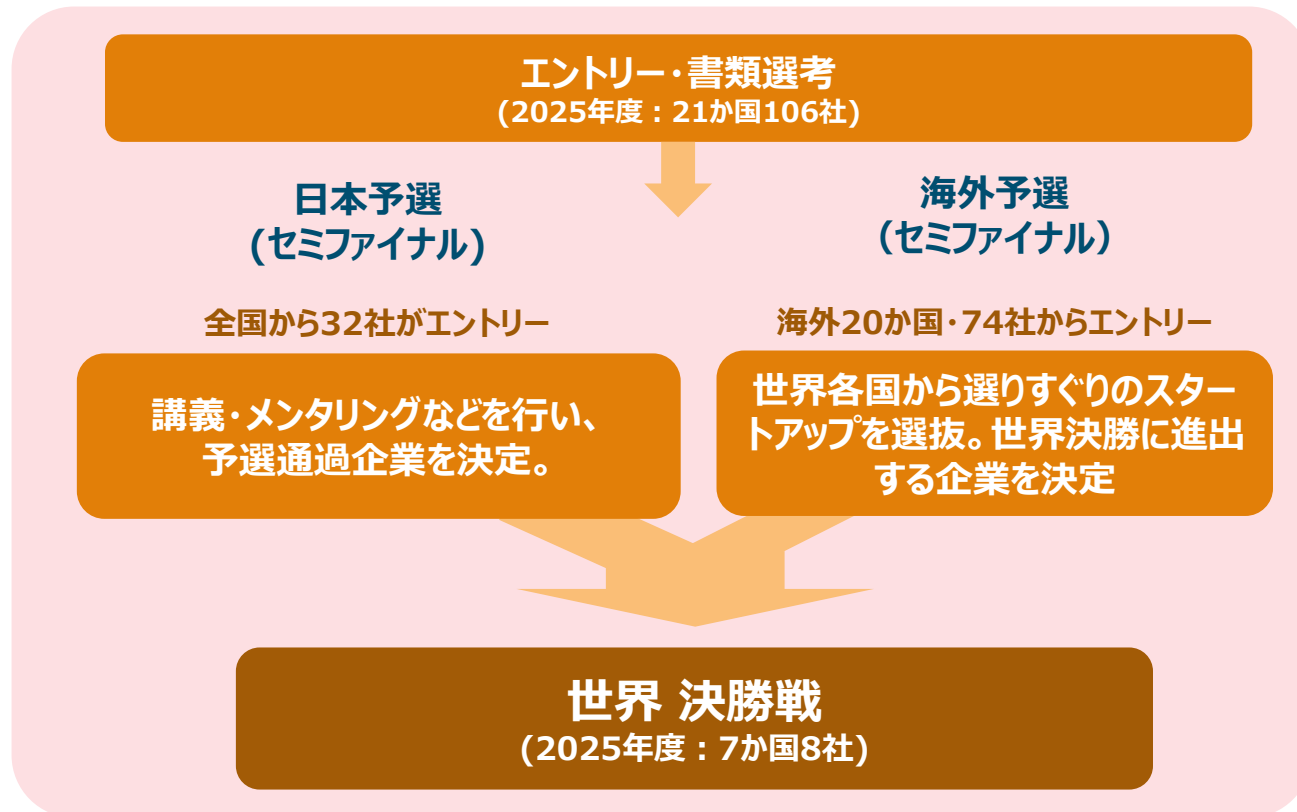
シリーズB

シリーズC

○○○○

GLOBAL PITCH SHOWDOWN

各国の予選を勝ち抜いたグローバル市場を目指す先進起業家がピッチを行い、各国の政府機関、大企業、投資家などが集結。日本のエコシステムの強化につなげる。



GLOBAL PITCH SHOWDOWN

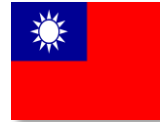
<世界決勝戦進出企業>

① アイヴィス



がんの診断と治療に変革をもたらす
病理診断とAI・深層機械学習・
画像解析

② ヒッポスクリーン・ニューロテック



キャップ型EEGデバイスとAIによる
メンタルヘルス評価システムの開発

③ イノペース



過活動膀胱に伴う尿失禁を軽減する
スマート埋込み型デバイスの開発

④ ループ・ダイアグノスティクス



救急医療現場での早期敗血症診断を
実現する「SeptiLoop」の開発

⑤ メリオデイズ・メディカル



世界初の非ホルモン性・局所療法
による月経痛緩和デバイス
「MelioOne®」の開発

⑥ ナノ・キューブ・ヘルス



すい臓がんの早期発見を実現する
ナノロボット医療機器の開発

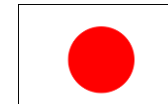
【参加者投票賞】

⑦ NDRメディカル・テクノロジー



AIとロボット技術を用いてリアルタイム画像
誘導で腫瘍等の病変に精密アクセスする
医療機器「ANT」の開発

⑧ フィジオロガス・テクノロジーズ



給水不要の在宅血液透析装置
の開発

【最優秀賞】

GLOBAL NAVIGATOR JAPAN

日本市場や日本での臨床試験にも関心を持つスタートアップが世界中(日本含む)から参加し、規制や商習慣等について理解を深める。また、企業や医療機関への訪問、マッチングプログラムなどを通じて日本市場を見据えた事業化を加速させる。

<2025年度プログラム>

9/16

専門家によるレクチャー

テーマ：規制・保険制度・商習慣

1 on 1 ミーティング

関心領域のKOL等との個別マッチング

9/17
京都

医療・研究機関

医療機器メーカー

医療機器メーカー

9/18
万博

万博視察

9/19
大阪

医療・研究機関

医療機器メーカー

医療・研究機関



GLOBAL NAVIGATOR

海外展開を目指す製品や試作品を保有する企業を対象に、現地の医療現場への訪問やBtoBマッチング等を通じて海外展開戦略の策定を支援

座学 ワークショップ

- ・グローバル展開を目指すための事業戦略の立て方、規制、文化の違い、知財の取り扱いなどについて、ワークショップを実施

メンタリング 個別面談

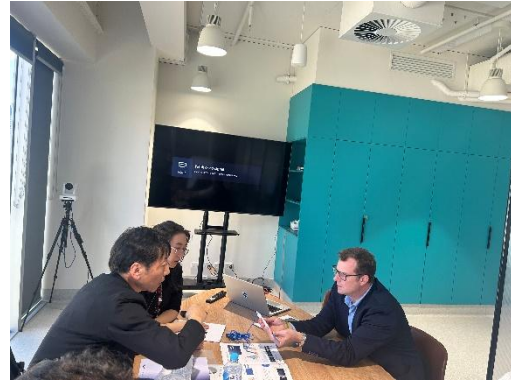
- ・1on1ミーティング設定のため、参加者へヒアリング
- ・各社が目指す海外市場に関する情報提供
- ・ピッチデッキ作成支援

メルボルン イマージョン

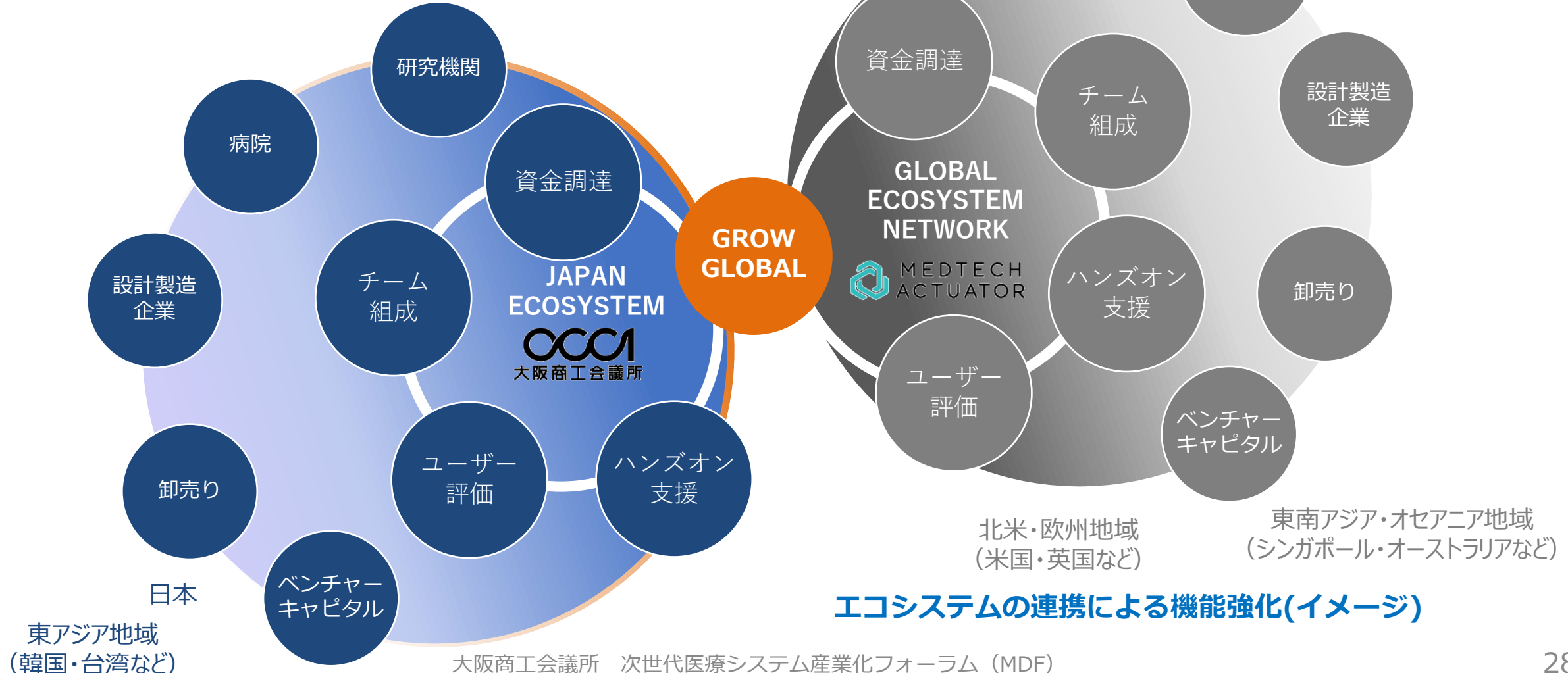
- ・現地の医療機関、政府機関、企業へ訪問
- ・ニーズに応じた1on1ミーティングの実施
- ・現地エコシステムとのネットワーキング

フォローアップ セッション

- ・事業戦略上の課題点を顕在化
- ・課題解決に向けた次のアクションを策定
- ・事業戦略のブラッシュアップ



メドテックアクチュエーターが持つ中小企業・スタートアップ企業支援の優れたノウハウと、大阪商工会議所の医工連携や事業化支援の経験、全国規模のネットワークを活かし、**医療・ヘルスケア分野のスタートアップ支援のためのグローバルエコシステムの構築**を目指す。



多様化する事業機会をとらえて、テーマごとに4つの分科会を設け、情報提供や交流・マッチングを実施する。

デジタル医療分科会（2018～）

急速に拡大するデジタルヘルス=AI,IoT等のデジタル技術を駆使した健康・医療分野における課題解決 に関する取り組みを紹介



登録者数 644社1,626名（2026.2現在）

看護・在宅医療分科会（2019.5～）

規制対象となる医療機器のみならず、業務補助や生活支援も含む医療現場ニーズ商機を探る



登録者数 479社958名（2026.2現在）

介護・福祉分科会（2019.8～）

今後一層の人材不足が懸念される介護福祉分野の課題・動向を紹介する



登録者数 414社821名（2026.2現在）


再生医療等分科会（2019.9～）

再生医療等に関する課題やビジネス展開のヒントとなる取り組みを紹介する



登録者数 230社572名（2026.2現在）


大阪・関西発の健康・医療分野におけるイノベーション創出を目指す

Nakanoshima (一財)未来医療推進機構

未来医療国際拠点
(2024年8月締結)
関西圏におけるライフサイエンス産業のローカルネットワークの中心になるとともに、グローバルネットワークとの結節機能を担うことを目指す


(2022年8月締結)


(独)国際協力機構 関西センター
開発途上国における健康・保健・医療分野の課題解決につながる関連企業の海外進出を支援


大阪商工会議所
The Osaka Chamber of Commerce and Industry

 国立研究開発法人
国立循環器病研究センター

3者間での連携 (2021年2月締結)

持続的に次世代の健康や予防、医療に貢献するプロジェクトや製品・サービス・システム等の創出に取り組む

 独立行政法人 国立病院機構
大阪医療センター
(2018年3月締結)

持続的に医療現場ニーズに即した次世代の医療機器および医療システムの創出に取り組む

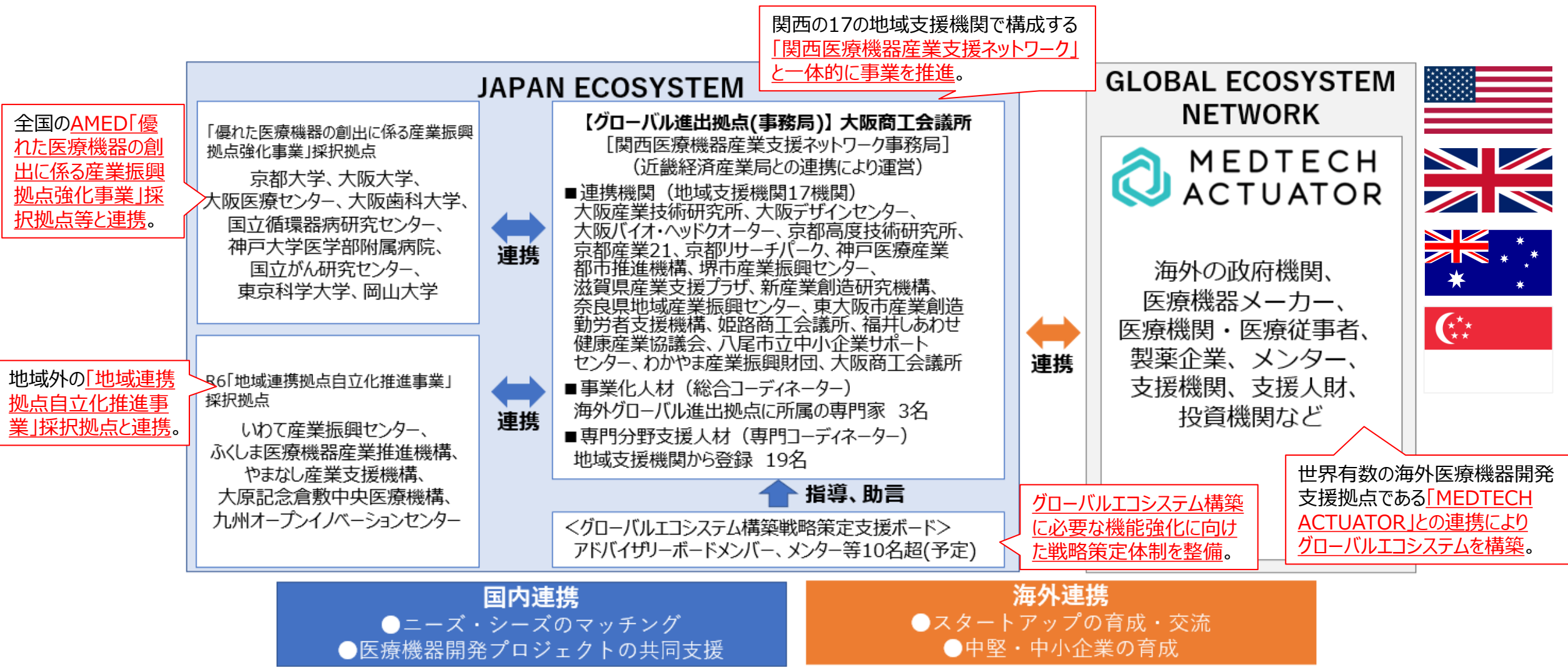
 国立研究開発法人
医薬基盤・健康・栄養研究所
National Institutes of Biomedical Innovation, Health and Nutrition


大阪大学
OSAKA UNIVERSITY

(2016年4月締結)

大阪大学大学院医学系研究科・同附属病院
人材の育成・交流、学術研究の振興と研究成果の事業化、社会活用の推進を図る

AMED(日本医療研究開発機構)の「医工連携グローバル展開事業 グローバル進出拠点事業」に全国で唯一採択(R7)。全国の支援機関と海外のアクセラレータとの連携により、海外展開を見据えた医療機器開発の事業化の促進を図る。



関西の17の地域支援機関で構成する「**関西医療機器産業支援ネットワーク**」と一体的に事業を推進。

全国のAMED「**優れた医療機器の創出に係る産業振興拠点強化事業**」採択拠点等と連携。

地域外の「**地域連携拠点自立化推進事業**」採択拠点と連携。

グローバルエコシステム構築に必要な機能強化に向けた戦略策定体制を整備。

世界有数の海外医療機器開発支援拠点である「**MEDTECH ACTUATOR**」との連携によりグローバルエコシステムを構築。

連携する各地域支援機関の経験豊富な支援人材が中小企業・スタートアップ企業等の医療機器開発におけるあらゆる課題に対応。「医工連携グローバル展開事業 研究開発事業」および「次世代型医療機器開発等促進事業 革新的な医療機器創出事業」への申請が見込める案件等を重点支援案件として選定し、各案件が抱える課題に対する伴走支援を実施。

ヒアリング・事業化相談



- <相談例>
- ・事業戦略策定 ・POC取得/証明 ・開発設計
 - ・許認可・保険戦略策定 ・海外展開 など

- <支援人材の専門分野 (一部) >
- ・医工連携 ・新規事業開発 ・海外展開 ・品質マネジメント
 - ・薬事戦略 ・ベンチャー支援 ・規制対応 ・特許 など

重点支援案件の選定

事業化コンサルティング (伴走支援)

ニーズに応じた国内外
事業戦略策定支援



医療従事者による
コンセプト・製品評価支援



医療機器開発の公募事業
申請に向けた支援

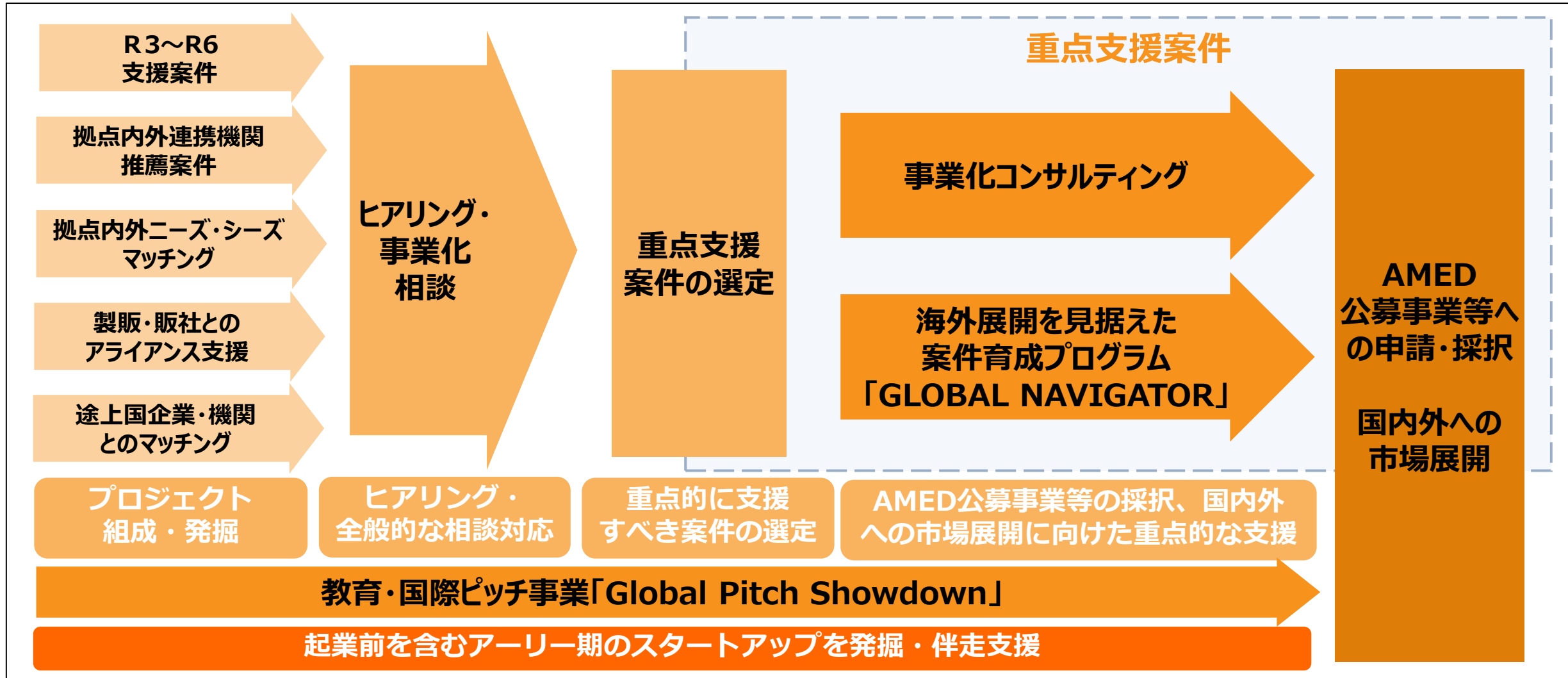


市場ニーズの調査支援



- 支援案件数：20件 (R3～：121件) ■ 重点支援案件数：10件 (R3～：56件) ■ コンセプト・製品評価支援：1件
- 市場ニーズの調査支援：1件 ■ 支援案件の公募事業への申請数：8件 (うち採択4件)

国内外の市場展開を見据えた「出口戦略」の立案・実行に対する支援を一貫して実施



AMED(日本医療研究開発機構)の「医工連携グローバル展開事業(国際展開伴走支援事業)」に分担機関として参画。研究開発代表者の東京大学とコンソーシアムを形成し、企業に対して開発・事業化に向けたコンサルティングや事業化相談等を実施。海外のアクセラレータと連携して海外展開支援を行い、日本全体の医療機器開発のグローバルエコシステムの構築を目指す。

海外エコシステム連携

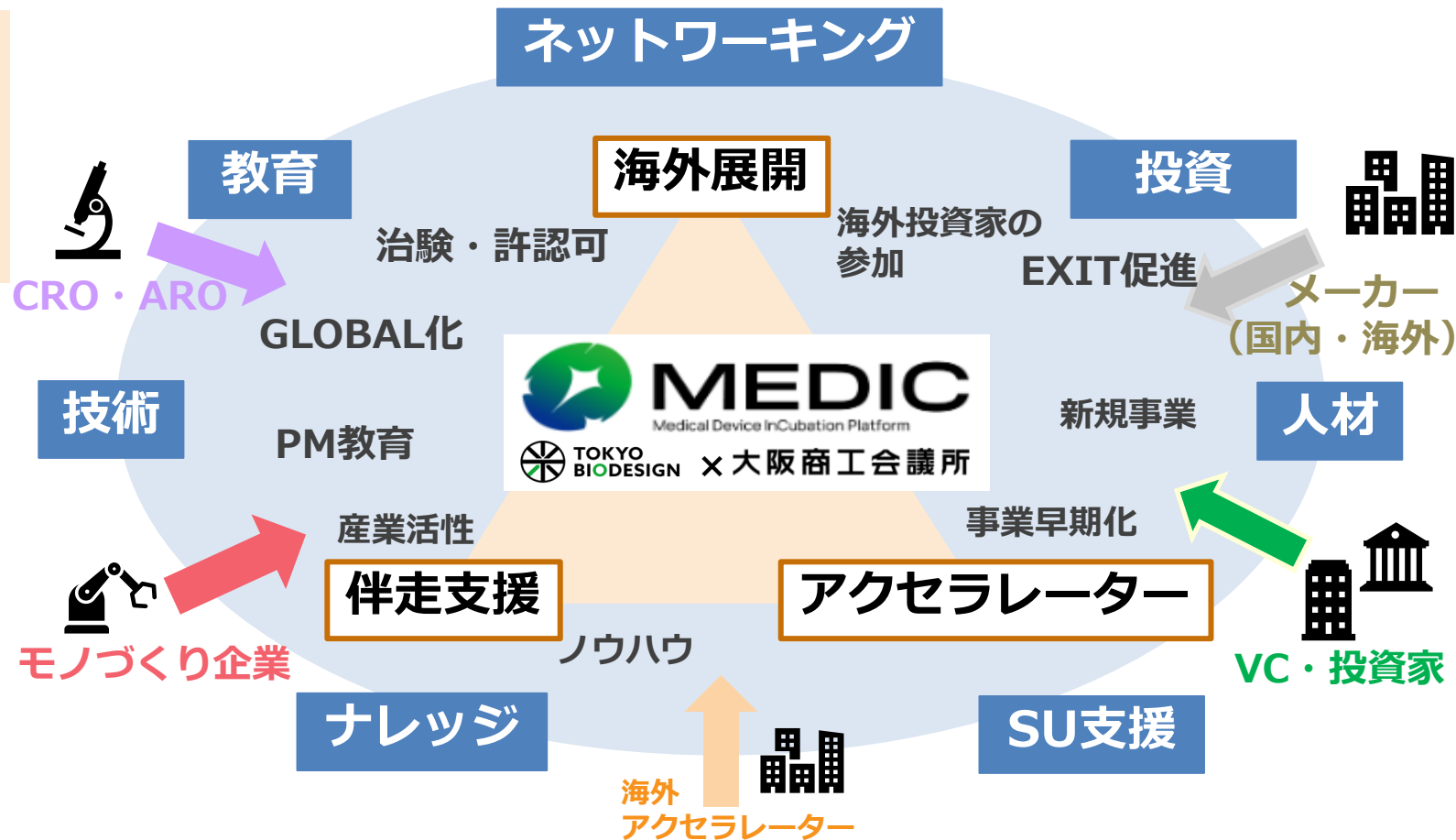
米国進出を中心としたエコシステムおよび、発展途上国への進出を含めた海外展開可能な連携体制を確立する。世界規模での事業戦略を検討し成功確度を上げる。

開発の加速と地域活性化

要求仕様の確定から製品開発までの、スキーム・業者選定の体制を完成させることで、製品開発の精度および速度を向上させる。高度医療機器開発可能なシステムインテグレーションを可能にする。

ニーズから販売まで

医療機器開発の長い開発のすべての過程で支援を可能とする、一元された窓口。



企業アクセラとSUによる活性化

SUと企業とのコミュニティを拡充し、早期にアプローチ可能な環境を構築。M&Aや新規事業開発を促進環境を整備し、企業に勤める専門職人材を有効活用することで、イノベーションの加速を図る。

人材バンク

人材紹介・業務委託・派遣・EIR等の様々な形でMEDTEC領域に参画できる社会にすることで、人材流動性を高める。企業OBを有効活用する。

教育環境

複雑な医療機器開発を理解するためのe-learning構築

これまで77件が事業化（上市等）

★その他、メディカル部門新設、分社化、業許可取得、雇用増等の波及効果あり

デジタルコルポスコープ

- ・開発企業：
（株）エスケーエレクトロニクス（京都府）
- ・連携機関：
加藤外科産婦人科・乳腺クリニック（愛知県）
- ・概要：
子宮頸がんの検診等で用いられる医療機器。
小規模な婦人科クリニックの診察室でも扱いやすい
小型で省スペースなデジタル式のコルポスコープ。
高倍率のカメラと高鮮度LEDで鮮明な診察が可能



スパイラルリトラクター

- ・開発企業：
（株）オーゼットケー（大阪府）
- ・連携機関：
国立病院機構四国がんセンター（愛媛県）
- ・概要：
乳がん手術において切開創に挿入して全周的な
視野の確保ができる開創器
- ・その他：
製造業許可を取得2020年度Medtec
イノベーション大賞「チャレンジ賞」受賞
“関西ものづくり新選2019”にノミネート



LED照明付プラスチック開創器

- ・開発企業：
安井（株）（宮崎県）
- ・連携機関：
琉球大学医学部附属病院（沖縄県）
- ・概要：
先端の鉤部分が透明なプラスチックでできた
開創器。LED照明がついているため、開腹手術
などで体内の処置を行う際に、術野を明るくする
ことが可能
- ・その他：
2018年グッドデザイン賞受賞
海外展開拡大中



木曜経済

大商の医療機器開発支援

長年の取り組みにより、全国とのネットワークを築き上げ、医療従事者からの共同開発提案件数が1,000件を突破したことが評価。

大阪商工会議所は、医療機器の開発を支援する取り組みを進めている。医療現場の課題解決に企業と二、三脚で歩み、機器開発につなげてきた。知見や実績を重んじる医療業界で、「筋力ではないかな」開発の支援から見えてきた課題とは。

大商が事務局を担う「次世代医療システム産業化フォーラム(MDF)」全国医師会と産学一堂に会し情報交換する。2003年にスタートし、25年7月には医療現場からの課題の提案件数が節目の1000件を突破した。大商が20年以上にわたり、約200の大学医師や病院とのパイプを築き上げてきた成果だ。25年6月に大阪市内でオンライン併用で開かれたMDFの例会には、関西に加え東京と鹿児島で勤務する医師が、6件の課題を提案した。京都大学の医師は、患者らの排せつ物の臭いと処理の現状を問題提起した。ポータブルトイレは排せつ物の臭いが部屋にこもり、処理袋は取り外しが面倒なおむつは廃棄コストが問題。消臭剤は効果が一時的。なおと指摘。吸水性があつて廃棄も容易な紙をベースにした消臭システムを開発してほしい」と投げかけた。この提案に製紙会社や社が関心を示し、後日、専門家を交えた個別面談が実現した。更に進んで合意

MDFを通じて、異業種から医療分野に参入し、現場ニーズに応じた新たな医療機器開発に取り組む山科精器株式会社の海外展開事例が紹介。

積極的な海外展開後押し

医工連携により新たな医療機器開発に取り組んでいる山一精工株式会社の事例が紹介。

何がヒットするのかわからない。自社製品のファンになってもうええ医師をいかに増やしているのかが大事」と話す。ね、メーカーの山一精工(大阪府)は、首の腫瘍の有無を診断する機器の開発に取り組み、医療機器の認証手続きを進めている。試作品は機械式で振動幅を0・3mmに抑え、片手の作業で真つす首に刺さるので引き抜きやすい。注射器を首に刺して細胞を採取する現状の手法は、手の振動で針先がぶれやすく何度も採取しなければならぬなどの課題があった。21年9月の課題提案を受け、同社が繰り返した試作は約15回。電源コードやボタン電池も検討したが、使わすさなどから乾電池を採用。テストを繰り返して女性の医師でも片手で握りやすいように本体を薄くした。1965年創業の山一精工は、下請として2000年ごろから内視鏡を洗浄する機械などの部品を製造していた。設計から製造まで主体的に取り組みのは初めてという。桂知伸社長は「会社として事業分野を広げていく必要があり、大商のMDFに参画」と話す。桂社長を支えたのが、大商のコーディネーター、児玉崇さん。インフルエンサーの検査の企画も大商の経営者で、開発に伴う補助金の申請なども経験したのが強み。三下清が得意な日本の中小企業はポテンシャルを在力を持っており、医療機器の分野でも成功するチャンスはある。進め方を見極めるのが秘の役員。山一精工も業事承認が取れたら海外に行けるだろうと児玉さんは見込みを押し。そもそも大商が医工連携の取り組みを入れたのはなぜだろうか。今も製業者が多く残る



外科手術で止血に使う自社開発の医療器具を手にする山科精器の保坂誠常務(滋賀県栗東市で2025年11月)(同社提供)

大阪商工会議所の医工連携による医療機器開発支援に取り組みが紹介

新規参入による医療機器開発をサポートするコーディネーターの取り組みが紹介。

大商市の道修町。強みを持つライフサイエンス分野を「大阪の成長エンジン」につなげ、景気が左右されにくい医療機器への参入で、既存の医療器具の改善点を指摘する声も恒数ある一方で、実現するための仕組みがない点に気がされた。

経済産業省によると、23年の医療機器のグローバル市場規模は5176億(約72・7兆円)で、国別では米国が約47%、日本が約5%を占め、今後、高齢化が見込める有市場だ。一方で国内の製造品出荷額は伸び悩んでおり、国内では輸入品がシェアを伸ばしている構造となっている。国は24年に「医療機器産業ビジョン」を策定。国際競争力の強化が不可欠で、米市場への足がかりが重要などとした。大商は米国向けに足がかりの構築に向け、同じ英語圏の一つで豪州などへの海外展開に関心を持つ、国内のスタートアップを交えた支援を模索している。松山裕・ライフサイエンス振興担当課長は「20年以上にわたる道修町の取り組みで中小企業支援の課題が明確になった。大商が得意とする幅広い支援で、積極的な海外展開を後押ししていきたい」と話している。【新宮直】

問い合わせ先

大阪商工会議所 産業部 ライフサイエンス振興担当
E-Mail : bio@osaka.cci.or.jp